

## 2018年度 大学自己点検・評価(神学部)自己点検・評価総括用シート 1

## ＜神学部の教育研究目標の進捗状況＞

教育研究目標(タイトル)		評価指標	評価尺度	進捗状況
目標 1	国際社会に必要な基礎学力の錬成	下記の行動計画における取り組み状況	A: 行動計画の取組みの実施と評価・検証が行われている	2018年度目標値 <b>B</b>
			B: 現状の分析とシラバスの整備が完了している	2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点) <b>B</b>
	①基礎科目における到達目標の精査	学部内における共通認識を図り、シラバスを改善する。	A: 継続的なシラバスの改善のための体制構築 B: シラバスの第三者チェック C: シラバス執筆方針の策定 D: 各科目の内容、到達目標の見直し	
	②宗教学関連(宗教リテラシー)の充実	『宗教文化士』の受験者数(単年度毎)	A: 1学年の10%以上 B: 1学年の7%~9% C: 1学年の4%~6% D: 1学年の3%以下	
③国際社会へ対応する能力の錬成	インターナショナルプログラムの受講者数(単年度毎)	A: 1学年の10%以上 B: 1学年の7%~9% C: 1学年の4%~6% D: 1学年の3%以下		
目標 2	少人数による教育	少人数教育の強化科目を選定する。シラバスに『少人数実施』と明示し、学生へ意図を伝達したうえで検証を行う。	A: 少人数科目の見直しと充実への取組み B: 少人数教育の実施・検証が行われている C: 少人数教育を行う教科科目のシラバスの改訂 D: 少人数教育を行う教科科目の選定	2018年度目標値 <b>B</b> 2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点) <b>B</b>
目標 3	“Mastery for Service”を实践する社会人の育成	ディアコニア・プログラムの新規登録者数	A: 5名以上 B: 4名 C: 3名 D: 2名以下	2018年度目標値 <b>A</b> 2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点) <b>D</b>
目標 4	専門的研究者の育成	独自の研究テーマと取り組む時間や高度な専門教育を受ける機会を増やし、大学院進学者数(他大学院を含む)を維持ならびに増加させる。	A: 8名以上 B: 5~7名 C: 3~4名 D: 2名以下	2018年度目標値 <b>B</b> 2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点) <b>B</b>

<2016～2018年度の自己点検・評価の取組み総括>

**総括1 <3年間の取組みによって改善したこと、向上したこと>**

神学部の教育はもともと少人数教育であったが、これまでその利点を意識的に活用できなかった一面がある。過去3年間に少人数教育を意識的に捉え、その特色を活かすことに取り組めたことは、大きな改善であったと言える。学修指導において1人1人の学生と丁寧に関わることが、宗教文化士の受験者数、インターナショナルプログラムの受講者数、ディアコニア・プログラムの登録者数の維持・増加につながっている。また、学部から大学院への進学率(約20-30%)は高く、少人数教育の顕著な成果であると言える。

**評価専門委員・所見記入欄:**

■総括1について

- ・ 少人数教育は科目によって適正な学生数が決められるものであって、少人数ならば善というものではない。重要なのは、それぞれのクラスの教員と学生の距離であろう。(A)
- ・ 進捗状況 D の項目については、引き続き努力をお願いします。(B)
- ・ 学部の特質としてある「少人数教育」の成果の内実がよく伝わってきます。(C)
- ・ 自学部の特長を捉え、様々な試みに取り組んでこられたことが伺えます。今後の更なる取組みに期待しています。(D)
- ・ 神学部ならではの特長を活かして、今後も改善・発展されることを期待しています。(E)